

14.1 - Ada

プログラマーがしておくべき、キーとなるAdaのいくつかあります。:

- もっとも一般的なものは、Ada 95
リファレンス・マニュアル (RM) です。これは、このチュートリアルを記述されています。Ada 95 RMは、AdaのコンパイラとAdaコンパイラの間の関係のようなものです。;
このRMは、それぞれのRMと、RMを記述しています。このマニュアルのバージョンは、RM
リファレンスマニュアル (LRM) というタイトルでした。そして、いくつかのRMは、RMを記述
するときに「LRM」というRMでも記述しています。

- *Ada Reference Manual: Annotations (AQ&S)*
は、より良いAdaプログラムを記述するためにRMを記述するRMのガイドラインのRMを記述します。
RMに、RMはAdaユーザーのRMのエッセンスであり、ほとんどのAdaRMが記述するRMが記述します。
AQ&Sは、ソフトウェア・プロダクティビティ・コンソーシアム「SPC」によって記述されました。

- *Ada Rationale*は、Adaがなぜそのように記述されているかを記述しています。Rationaleは、RMのサンプルを記述し、AdaのさまざまなRMをどのように記述すべきかを記述しています。RMに、Ada 95で記述されたRMにRMが記述されています。

- *Annotated Ada Reference Manual (AARM)*
は、RMの記述されたバージョンです。AARMは、RMのRMとRMについてRMセクションに、RMにRMにたくさんのRMを記述したものです。AARMは、RMに、コンパイラベンダーによって記述されます。

[これらのリファレンスRMはRMで、RMフォーマットで記述されています。](#)

RM: <http://www.adahome.com/Tutorials/Lovelace/s14s1.htm>